



キヤンパスの桜が
咲き乱れる季節となりました



※あいうえお順。凡例…①研究分野 ②中央大学での経歴 ③中央大学での役職

退職される先生方

今年は、中央大学経済学部運営にあたつて多大な貢献のあった先生方が定年退職されます。長年本学へのご尽力に感謝し、ここで紹介させていただきます。

二〇二四年度末に

退職される先生方

関野満夫 教授

①財政・公共経済 ②一九八七年 助手、一九九〇年 助教授、一九九六年 教授 ③学部長、図書館長、評議員、学術講演運営委員会委員長、教員組合書記長

松丸和夫 教授

①社会政策 ②一九八一年 助手、一九八四年 専任講師、一九九〇年助教授、一九九七年 教授 ③学部長、常任理事、評議員、ダイバーシティセンター所長、学員会副会長、白門経友会会長

浅田統一郎 教授

①理論経済学 ②一九九三年 助教授、一九九四年 教授 ③経済学部長補佐、入試管理委員会委員長、経済研究所長、学長補佐、評議員、教員組合書記長

新井洋一 教授

①コーパス言語学、英語学 ②一九九四年 助教授、二〇〇〇年 教授 ③視聴覚教室運営委員会委員長、教員組合委員長

仲地一葉(任期制) 助教

①社会政策、人事労務管理、労働社会学 ②二〇二四年 助教

卒業式、入学式のシーズンとなりました。今年の三月は寒暖の差の激しい日が続き、多摩キヤンパスの桜は昨年よりは開花が遅れているので、入学式の頃に満開となつて新入生を迎えてくれそうです。

卒業式、入学式のシーズンとなりました。どのような学生、教員が来られるのか、毎年楽しみです。

彼ら・彼らの活躍を経友会としても後押ししていくことを考えておりま

坂田幸繁 教授

①統計科学、地域研究、経済統計 ②一九八二年 助手、一九八五年専任講師、一九九〇年 助教授、一九九七年 教授 ③学生部長代行、入試管理委員会委員長代行



三月六日の送別会にて 左から、仲地先生、松丸先生、白門経友会会長、坂田先生、新井先生、浅田先生

佐、情報整備センター所長

(2) 2025 年(令和 7 年)3 月 31 日

白門経友会



学生たちの主な活躍

二四年度に学生たちが行つた活躍の中で特に顕著なものを見出しします。詳しくは経済学部ホームページのニュースをご覧ください。

経済学部伊藤篤ゼミの一年生が量子アニーリングアイデアソンで入賞

二〇二四年五月二十五日に開催された、「量子アニーリングアイデアソン」において、伊藤篤ゼミ二年の黒沢勇人さんのアイデアが「革新的アイデア賞」に選ばれました。「量子アニーリング」とは、量子コンピュータの実現方式の一種であり、組み合わせ問題に特化した技術のことです。

学術連盟経済学会委員長の経済学部二年生が、税収弹性値予測コンテストで優秀賞を受賞

経済学部二年生の阿部凜花さんが、景気循環学会高圧経済研究部会の「税収弹性値予測コンテスト二〇二三」において、優秀賞を受賞しました。このコンテストは、「税収弹性値」、「税収」、「名目 GDP」、それぞれの予測値の精度を基準に賞が授与されるというもの

経済学科四年生の豊田さんが「第二回 私の提言」学生特別賞受賞

九月二〇日(金)、「第二回 私の提言(主催:公益社団法人教育文化協会)」の受賞者が発表され、経済学部経済学科四年生の豊田真由さんが学生特別賞を受賞しました。豊田さんは経済学部の科目「ヒューマンエコノミークラスター特殊講義」を受講しており、担当教員の阿部先生が講義中に紹介した同賞に応募し、めでたく受賞に至りました。

経済学部国際会議 IEEE CogInfoCom 2024 にて特別賞を受賞

二〇二四年九月一六～一八日に中央大学多摩キャンパスで開催された国際会議 15th IEEE International Conference on Cognitive Infocommunications (IEEE CogInfoCom 2024) において、経済学部の小尾ゼミは社会政策・

論文が、特別賞 (SPECIAL AWARD FOR AI SUPPORTED EDUCATION) を受賞しました。論文執筆者は大塚あみ、経済学部教授伊藤篤(株) GClue 佐々木陽(経済学部非常勤講師)です。

経済学部小尾ゼミの研究が毎日新聞神奈川県版に取り上げられました

経済学部小尾ゼミは社会政策・労働問題を専門とするゼミで、今年のゼミ内のチームでは保育士の労働

です。阿部さんは経済学部教授飯島大邦が会長を務める中央大学学術連盟経済学会の委員長で、飯島ゼミのゼミ生でもあります。今後の活躍が期待されます。

論文が、特別賞 (SPECIAL AWARD FOR AI SUPPORTED EDUCATION) を受賞しました。論文執筆者は大塚あみ、経済学部教授伊藤篤(株) GClue 佐々木陽(経済学部非常勤講師)です。

論文が、特別賞 (SPECIAL AWARD FOR AI SUPPORTED EDUCATION) を受賞しました。論文執筆者は大塚あみ、経済学部教授伊藤篤(株) GClue 佐々木陽(経済学部非常勤講師)です。

論文が、特別賞 (SPECIAL AWARD FOR AI SUPPORTED EDUCATION) を受賞しました。論文執筆者は大塚あみ、経済学部教授伊藤篤(株) GClue 佐々木陽(経済学部非常勤講師)です。

論文が、特別賞 (SPECIAL AWARD FOR AI SUPPORTED EDUCATION) を受賞しました。論文執筆者は大塚あみ、経済学部教授伊藤篤(株) GClue 佐々木陽(経済学部非常勤講師)です。

(3) 2025年(令和7年)3月31日

白門経友会

ティ特別委員会主催の第六回立川プロジェクトでは、「SDGs目標11(15達成に関するアイディア」をテーマに二〇二四年七月一日～九月一六日で募集があり、二〇二五年二月六日に表彰式が行われました。プロジェクトに参加した経済学部の宮本ゼミは、高齢者福祉の視点から詐欺被害防止策を提言したチーム『スパナポ』が審査委員長賞に、児童福祉の視点から子どもの体験格差是正を訴えたチーム『緑茶』が「審査員特別賞」にそれぞれ選ばれ、ダブル受賞となりました。

履修要項から

中大の歴史を紐解く(一)

濱岡 剛

前号の高梨さんの記事の中では、昭和四四年度の法学部履修要項の作成のことが出てきました。また、新しく開設された大学史資料館で、開館当初、過去の学部ごとの『履修要項』が展示されていました。こうしたことについて、中央図書館の書庫に潜つて調べてみました。

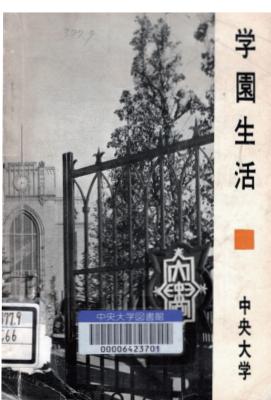
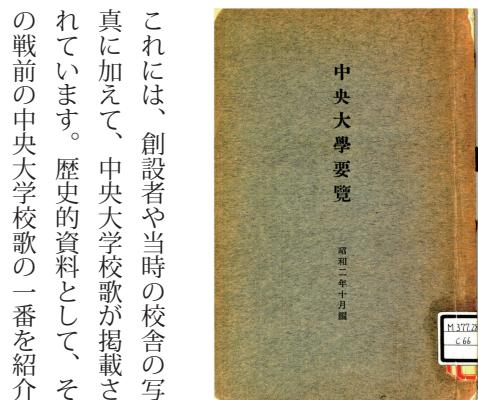
『中央大學要覽』(一九二七年)
中央大学ハ明治一八年英吉利法律学
校ノ名ノ下ニ創立セラレ爾來歲ヲ
閱ミスルコト四十年間幾多ノ変移推
移ヲ重ネ茲ニ吾校風ヲ馴致セリ惟フ
二本学ハ創立以來歴代ノ當局者茲ニ
教職員常ニ浮華放縱ヲ戒メ輕佻詭激
ヲ斥ケ我國固有ノ精華ニ則ルト共ニ
当初法律制度ノ完備セサリシ力為メ
主トシテ英法ヲ教授シ自ラ英國ノ著
實穩健ナル長所ヲ伝ヘタリ故ヲ以テ
方針其教育ノ主義一トシテ此精神ニ
出テサルナシ之ヲ校風ト為ス』

最近はあまり聞かなくなりましたが、以前には中央大学のモットーあるいは建学の精神として持ち出された「質実剛健」が、ここでは「校風」として説明されます。なお、「浮華放縱ヲ戒メ輕佻詭激ヲ斥ケ」、「質実剛健ノ氣学園ニ横溢ス」という部分は、大正十二(一九三三)年に昭和天皇(当時は攝政)が発した「国民精神作興ニ關スル詔書」を思い起させます。

『学園生活』(一九五九年)
中央大学のホームページの年表
データベースをチェックしますと、昭和三三年度に「本年度から新入生にハンドブック『学園生活』配布

「吾校風」

度のものが収められています。これは、主に学生部に関連したもので、学生生活を送る上で必要となる大学の施設や組織の利用方法を記した七〇ページほどの冊子(横書き)です。履修に係わることは書かれていませんので、履修要項とは別のものと見るべきでしょう。



なお、最初に掲載されている、柴田甲四郎総長の「建学の精神」では、「私どもの先輩が、創立当初より高く掲げて、本学独自の学風と伝統とを確立した『質実剛健』の標語と並ぶ『家族的情味』とは、'ゝ'という説明がなされています。今となつては懐かしい響きの言葉となつてしましました。

本学の建学の精神は、近年では設置申請の際に設置目的として申請された「實地應用ノ素ヲ養フ」という言葉が挙げられるようになつてるのは、皆様ご存じのとおりです。

担当授業、ふり返ってみれば



経済学部教授 坂田 幸繁

一九八一年夏だったか、中央大学経済学部で統計学の助手採用試験が公募形式で実施されるという。きっととだめだろうけど、と前置きされて、九州大学統計学研究室（経済学部）の恩師から応募を勧められた。それがきっかけである。今日の定年退職まで四十年余り中大にお世話になってしまった。実力以上の運のおかげで中大に縁がつき、入職後も紆余曲折はあったものの教授会の同僚や先輩諸氏おかげで今日を迎えていた。ひとにも恵まれた。感謝である。

助手から専任講師に昇格し、はじめて授業をもつことになるが、最初の数年、出来は散々であった。そもそも大学での授業経験は自分が母校で受けた授業くらいしか想定できな

い。といつて自分が学生だった時空には、わかりやすい授業という観念はなく、俺の授業が学生諸君にわかるわけがないよと豪語する先生方もいるような超ローカルな時代雰囲気（逆に、やさしすぎると盾突く学生もいた）である。その真意はといえば、むしろ研究に裏打ちされた教育と理解しがたい空白、行間は学生が自分で埋めていく、それが大学での勉強だという暗黙の了解事項であつた。そのうえでの言葉である。とはいえ、そういう古い頭でつかちの若造が授業を組み立て教壇に臨んでいくのだから、受講者にはいい迷惑である。

特殊講義で数理統計を内容とした授業を実施した。思い返すも恥ずかしく赤面してしまう授業である。黒板に向かってぶつぶつぶやきながらも、本人は悦に入っている、よくだめ教員と揶揄される板書イメージである。若いころであり、自意識も自尊心も過剰であるから始末が悪い。腐っているときにつきあってくれたのが当時の昼・夜間部のゼミ生である。ゼミあることに学生と飲んでいたようなありさまだったが、とくに夜間部ゼミ生には同年代の公務員職の履修者もあり、そのうちわただきたい。

間にには、わかりやすい授業という観念はなく、俺の授業が学生諸君にわかるわけがないよと豪語する先生方もいるような超ローカルな時代雰囲気（逆に、やさしすぎると盾突く学生もいた）である。その真意はといえば、むしろ研究に裏打ちされた教育と理解しがたい空白、行間は学生が自分で埋めていく、それが大学での勉強だという暗黙の了解事項であつた。そのうえでの言葉である。とはいえ、そういう古い頭でつかちの若造が授業を組み立て教壇に臨んでいくのだから、受講者にはいい迷惑である。

特殊講義で数理統計を内容とした授業を実施した。思い返すも恥ずかしく赤面してしまう授業である。黒板に向かってぶつぶつぶやきながらも、本人は悦に入っている、よくだめ教員と揶揄される板書イメージである。若いころであり、自意識も自尊心も過剰であるから始末が悪い。腐っているときにつきあってくれたのが当時の昼・夜間部のゼミ生である。ゼミあることに学生と飲んでいたようなありさまだったが、とくに夜間部ゼミ生には同年代の公務員職の履修者もあり、そのうちわただきたい。

この授業批評をやんわりと論すよう

に展開してくれた。

本人、表向き非を認めることはないが、胸の奥にはやんわりとしみ込んでおり、ひそかに教授法含め改善を試みたものである。いまはといえば、結局、誤魔化しがうまくなっただけで内実はさほど変わらない。何より、紙と黒板に代わりPCとプロジェクターとインターネットが登場し、本来の授業法をものにしないままテクノロジーに逃げを決め込んだ形になってしまった。その反省もあり最近では、コロナ禍で作成した電子教科書と電子資料を黒板代わりに、手書き入力で電子板書する方式に落ち着いた。しかし考えてみれば、元に戻つただけのような気もする。Eを不合格とするなら、何とかD評価をいただけるならありがたい。本人としてはこれでもかなり改善された気になっている。

総会案内

日時 六月二十四日（土）

場所 中央大学多摩キャンパス
七号館（経済学部棟）

七一〇四教室

記念公開講演講師：鳥居伸好教授

最後になりましたが、経友会の皆さんにはますますのご発展を祈念しつつ、後に続く学生への変わらぬ応援をお願いしたいと思います。長い間、お世話をになりました。

引き続き、「経済学部創立百周年記念奨学金」へのご寄付を募っています

詳細は中大WEBサイトにて。経済学部トップから赤色のバナーをクリック。スマホはQRコードから。

